



**ZOOM
UP**

JETプログラムから広がる世界—JETAAの活動

JETプログラムへの参加期間は最長で5年間である。しかし、任期終了後も、日本や配属先の自治体に愛着や親しみを持ち、JETプログラムの運営を支える強力なサポーターたちが世界各地に存在する。本特集では、そうしたJET経験者たちが世界各国に結成したネットワークであるJETAA（元JET参加者の会、JET Alumni Association）の活動に焦点を当てながら、JETプログラムを起点に広がるさまざまな取り組みを紹介する。

〔(一財)自治体国際化協会 JETプログラム事業部調整課〕

1

JETAAの概要とKenJETkai

(一財)自治体国際化協会 JETプログラム事業部調整課

JETプログラムを支えるJETAA

JETAAとは、JETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）を終了したJETプログラムの経験者（以下、JET経験者）の有志が世界各地で設立した同窓会組織のことである。2023年12月現在、日本を含めた19の国と地域で活動し、支部数は55支部、会員数は2万人以上にのぼる。

JETAAが設立されたのは、1987年のJETプログラム発足から2年後の1989年のことである。設立当時、JETAA規約のリストに盛り込まれていた支部数は、全世界で37支部であったが、30年以上にわたる関係者の尽力により、支部の数は徐々に増えていった。それに伴い活動の幅も広がっていき、各国、各都市に結成された支部ごとに多様な活動を行うネットワークへと成長した。

多くの支部で共通する主な活動内容は、現地の在外公館と連携しながら行うJETプログラムの運営支援である。例えば、JETプログラムの広報や募集活動の支援、新規JET参加者を対象とした出発前オリエンテーションへの協力などが挙げられる。

また、日本文化を紹介するイベントや日系機関と共催で行うイベント、JET経験者同士の交流を深めるイベントも多くの支部で行われており、日本と世界をつなぐ重要な懸け橋として欠かせない存在となっている。

JETAAの統括—JETAA-I

世界中のJETAAネットワークを統括する組織がJETAA-I（元JET参加者の会国際委員会、JETAA International）である。JETAA-Iは、JETAA各支部、クレア、政府機関などとの連絡調整を行うとともに、JET経験者やJETAA支部に情報やサービスを提供する窓口としての役割を担っている。さらに、JETAA各支部、日本の政府機関、クレアなどが参加するJETAA国際会議を3年ごとに開

現在 19 カ国 55 支部に約 2 万 3,400 人が在籍

国	会員数
JETAA アメリカ	約 11,200 人
JETAA カナダ	約 3,000 人
JETAA ジャマイカ	約 100 人
JETAA ブラジル	約 100 人
JETAA イギリス	約 2,000 人
JETAA アイルランド	約 500 人
JETAA ドイツ	約 300 人
JETAA フランス	約 300 人
JETAA 韓国	約 400 人
JETAA シンガポール	約 100 人
JETAA オーストラリア	約 2,200 人
JETAA ニュージーランド	約 1,000 人
JETAA 南アフリカ	約 900 人
JETAA 日本	約 1,000 人

JETAAの主な国別の会員数
(2023年12月現在の概数。休止支部は除く。)

催し、JET プログラム関係者全体の協働体制を強化する取り組みを行っている。

本特集では、直近の2022年 JETAA 国際会議で提案された、JETAA-I が行う2つ



ASEANおよびインドの2024年 JETAA ネットワーキング会議
(クレーシンガポール事務所主催)

の主要な事業である KenJETkai と動画コンテストに焦点を当てる。また、JETAA ネットワークを活用して地域を盛り上げる JET 経験者の活躍事例や、活発な活動を行っている世界各地の JETAA 支部の事例を紹介する。

JET プログラムでの任期終了以降もそれぞれのネットワークを生かして展開される、JET 経験者たちによる多彩な活動をお伝えしたい。

KenJETkai とは

「KenJETkai」は JETAA-I の事業の一つで、いわば JET プログラムの県人会に相当する、フェイスブックをプラットフォームにしたグループのことである。2024年4月現在、47都道府県のうち、44都道府県に KenJETkai グループがあり、その会員数の合計は5,000人を超えている。グループに入るためには、フェイスブックのアカウントと、入りたいグループの会長の承認が必要だが、JET 参加者や JET 経験者はもちろん、関係者であれば誰でもグループに入ることができる。グループの規模はさまざまで、会員数が200人を超えるグループもいくつかある。

KenJETkai の歴史

KenJETkai の発案者は、2002年から2006年まで熊本県に ALT（外国語指導助手）として配属されていたマーク・フレイ氏である。2015年にクレーが実施した「里帰り事業」にフレイ氏が参加したことが KenJETkai の始まりだった。フレイ氏は、久しぶりに「第二の故郷」である熊本県に帰った時、強く感動し、他の JET 経験者にも同じような経験をしてほしいという思いに至った。2017年の米国 JETAA 地域会議で、フレイ氏は多くの JET 経験者の前で「KenJETkai」という新しい取り組みについて発表した。その反響は大きく、会議の直後には早速いくつかの KenJETkai グループが立ち上がった。その後、KenJETkai のグループとメンバーは順調に増

えていった。しかし、規模が大きくなり、フレイ氏一人ではこの事業の総括が難しくなったため、JETAA-I が KenJETkai の総括に携わるようになった。

2019年に東京で開催された JETAA 国際会議にて、JETAA-I が JET プログラムの運営に関わる関係者に KenJETkai 周知への協力を呼びかけたことが、KenJETkai の推進につながった。KenJETkai のさらなる活性化のため、2020年に JETAA-I が JET プログラムの取りまとめ団体である各自治体を訪問し、KenJETkai を活用するメリットを説明する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で自治体訪問は実現しなかった。

新型コロナウイルス感染症の影響が収まり始めた2022年の秋、東京で開催された JETAA 国際会議で、KenJETkai が再び議題に上がった。そして、延期されていた KenJETkai を PR する自治体訪問を2023年の夏に実施することが決定された。

KenJETkai の目標

JETAA-I によると、KenJETkai のビジョンは、「各都道府県の国際的コミュニティを強化し、JET プログラムのあらゆる関係者をつないでいくことにより、JET 参加者や JET 経験者がより効果的に自分の『第二の故郷』を世界に発信できるようにすること」である。つまり、現役の JET 参加者、JET 経験者、そして各地域の人々のための交流の場を作り、あらゆる情報を自由に共有できるようにすることである。このように、JET 経験者と自治体の人々を、クレーを介さず直接つなげることは初めての試みである。

さまざまな人がつながることで、JETAA-I の KenJETkai 担当役員であるマシュー・ギラム氏が言う「JET のパイプライン」（一連のプロセス）が見えてくる。例えば、JET プログラムへの参加が決まった新規 JET 参加者にとっては、来日する前に KenJETkai で多くの情報を手に入れることができる。また、実際にその地域に住む先輩たちから実態を聞くことで、見知らぬ土地に住む不安を和らげることができる。次に、現役の JET 参加者にとっては、KenJETkai で JET プログラムを終了した先輩たちとつながることで、経験を生かした就職活動などについてのアドバイスを聞くことができる。さらに、日本から離れて暮らしている JET 経験者にとっては、自身が以前生活していた地域の最新情報を入手できるのはとても嬉しいことであり、築き上げてきた地域との絆を

北海道	165	京都府	7
青森県	59	大阪府	69
宮城県	43	兵庫県	136
山形県	6	和歌山県	53
福島県	46	鳥取県	63
茨城県	8	島根県	135
栃木県	80	岡山県	48
群馬県	56	広島県	123
埼玉県	77	山口県	16
千葉県	58	徳島県	260
東京都	63	香川県	39
神奈川県	15	愛媛県	101
新潟県	56	高知県	192
富山県	602	福岡県	64
石川県	80	佐賀県	110
福井県	119	長崎県	175
山梨県	88	熊本県	237
長野県	90	大分県	87
岐阜県	75	宮崎県	235
静岡県	283	鹿児島県	139
愛知県	18	沖縄県	181
三重県	40	テーマ別グループ	227
滋賀県	183	計	5,007

KenJETkai 会員数（人） 2024 年 4 月現在

維持することもできる。このように、JET 経験者と JET 参加者が地域を介して相互に作用することにより、次世代につながる「JET パイプライン」を築くことができる。

自治体にとっての参加メリット

KenJETkai への参加は、JET 参加者や JET 経験者だけではなく、国内の自治体にとっても多くのメリットがある。

例えば、自治体と JET 参加者との情報交換や情報共有が進むことにより、相互理解を深めることができる。JET プログラムへの参加が決まった新規 JET 参加者の中には、来日にあたってさまざまな不安を抱えている人も多い。日本での生活がうまく想像できず、実際に来日した時に、イメージしていた生活と違うことから、大きなストレスを感じてしまうケースもある。来日前に赴任先の KenJETkai グループに入り、自治体などから投稿された現地情報を読んだり自治体関係者とコミュニケーションを取ったりすることにより、来日前後の相互の不安解消を図ることができる。

現役の JET 参加者が KenJETkai を活用することから得られる自治体のメリットは間接的ではあるが、重要なサポート・ネットワークになり得る。JET 参加者は仕事や私生活で困ることがあれば、PA（取りまとめ団体アドバイザー）に相談することがよくあるが、多くの PA はさまざまな業務を抱え、時に手が回らないこともある。このような時、PA にとって気軽に相談できる窓口とし

て KenJETkai が機能すれば、PA の負担が軽減され、ひいては自治体の業務の円滑化につながるだろう。

また、KenJETkai を通して、JET 経験者と「第二の故郷」である自治体との絆を維持することもできる。せっかく JET プログラムに参加し、地域のことをたくさん学んだにも関わらず、帰国後に自治体との縁が切れてしまうのは非常にもったいないことだが、KenJETkai を使えば、年月が経過し自治体の担当者が代わっても、継続して連絡を取り合うことが容易になる。

自治体にとって特に価値があるのは、KenJETkai が情報発信の窓口となり得る点である。各分野に広いネットワークを持つ JET 経験者も多いため、観光地や特産品の PR 情報はもちろん、求人情報やイベント情報、ウェビナー集客など自治体が国内外に広く周知したい内容を KenJETkai に共有すれば、各会員がそれぞれのネットワークやコミュニティにおいて拡散することにより、世界各地に効果的に PR や周知を行うことが可能である。

KenJETkai の PR のための自治体訪問

2023 年と 2024 年に、JETAA-I の会長と担当役員が、クレアの職員と共に計 12 府県を訪問し、KenJETkai の PR を行う



とともに活用に向けての JETAA-I による鳥取県庁訪問協力を仰いだ。JETAA-I によると、KenJETkai では JET 経験者同士の交流は盛んではあるが、国内の自治体からの発信が少ない状況である。そのため、JETAA-I は、KenJETkai をさらに盛り上げるためには、自治体からのコンテンツが必要不可欠だと考えている。

自治体を訪問し、各担当者と意見交換したことで、KenJETkai の課題も見えてきた。訪問した自治体では、KenJETkai という取り組みを評価する一方で、プラットフォームの問題を指摘する声もあり、自治体が KenJETkai を積極的に活用する事例は多くはなかった。KenJETkai ができた 2017 年は、米国ではフェイスブックが SNS の主流だったが、2024 年現在では、特に若い世代においては、インスタグラムやディスコードなどの SNS が主流である。JET 経験者、JET 参加者、自治体をどのようにして一つのプラットフォームでつなげるか、そしてプラットフォームをどのように活性化させるかが、今後の大きな課題であろう。

2

JETAA ネットワークを活用した JET 経験者の活躍事例

JETAA 西日本支部 共同会長 Jonathan Lucas (ジョナサン・ルーカス)

私が現在の道に進むきっかけとなったのは JET プログラムでした。JET プログラムで得た経験は、参加した期間だけにとどまりません。柔軟性などのスキルを身につけたことも大切ですが、人とつながりたいという思いが強く芽生えたことが最も大きな成果だと思います。人脈を築く能力は、現在の職務において欠かせないものとなっています。

MICE 業界で働く

私は大阪観光局で MICE^(注) プロモーション・スペシャリストとして働いています。大阪観光局は大阪府、大阪市、堺市を代表する大阪の観光地域づくり法人 (DMO) です。私の主な役割は、ビジネス旅行者に焦点を当て、大阪を世界有数の MICE デスティネーション (MICE の開催地) として宣伝することです。大阪がレジャーだけでなく、ビジネス旅行者にとっても魅力的な地域であることをアピールするために、さまざまなプロジェクトに取り組んでいます。これらのイベントは、特定の地域に何百人、時には何千人もの人々を呼び込み、その地域の経済に貢献し、経済活性化の重要な原動力となります。つまり、会議やイベントの主催者に大阪を開催地として選んでもらうことが重要なのです。

大阪観光局の MICE 誘致戦略部における私の役割は、メディア対応や会議・イベント主催者との調整を通じて大阪を国際的に宣伝することです。私の目標は、大阪を次のイベント開催地として選んでもらうだけでなく、選ばれた後もサポートを提供することでもあります。

大阪 MICE の成功事例

例えば、ビジネスイベントの例として、IGLTA (国際 LGBTQ+ 旅行協会) 世界総会 2024 があります。

この記事を書いている時点では、2024 年 10 月に大阪で開催予定であり、この世界的なイベントはアジアで初めて開催されることになります。IGLTA が初のアジア開催地として大阪を選んだのは、大阪観光局が LGBTQ+ 旅行者が大阪で快適に過ごせるよう支援してきたことに加え、私たちが主催者や参加者と直接協力し、大阪で世界総会を開催することがいかに大きなメリットをもたら



2023 年 IGLTA 大会で商談する様子



大阪の LGBTQ+ 観光の取り組みについてプレゼンテーションを行う様子

すかを主催者に理解していただいたためです。さらに、2025 年の大阪・関西万博をはじめとする大阪のこれまでの数々の国際的なイベント誘致の成功も、大きな要因となりました。

ネットワーク構築の必要性

このような大規模なイベントを成功させ、さらに多くの主催者に大阪を次の開催地として選んでもらうためには、国内外のネットワークが不可欠です。JET プログラムを通じて、さまざまな人と人脈を築く能力を得ましたが、特に重要なのは、観光業界全体で連携し、協力できる JET 経験者が多く存在することです。JETAA が提供するリソースにより、JET 経験者との連絡を簡単に取ることができ、現在の職務に大いに活用できています。人脈作りが非常に重要なグローバル MICE 業界において、JET プログラムで得たこのスキルや、迅速に連携できる貴重なグローバルネットワークは大いに役立っています。

(注) 会議 [Meeting]、報奨・研修旅行 [Incentive Travel]、国際機関・団体、学会などが行う国際会議 [Convention]、展示会・イベント [Exhibition/Event] の頭文字を使った造語でこれらのビジネスイベント業界の総称

プロフィール

**Jonathan Lucas**
(ジョナサン・ルーカス)

米国バージニア州出身。バージニア工科大学で物理学を専攻し卒業。連邦政府のマーケティング業務に短期間従事した後、JET プログラムに参加し、静岡県の子立高校で 3 年間 ALT (外国語指導助手) として英語を教える。JET プログラム終了後、大阪観光局に入社し、現在は MICE (ビジネス・イベント・ツーリズム) と LGBTQ+ ツーリズムを担当。

JETAA トリニダード・トバゴ支部の再生 ～再起とコミュニティの道のり～

JETAA トリニダード・トバゴ支部 会長 Miriam Lochan (ミリアム・ローチャン) / (一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部調整課編

日本から遠く離れた島、トリニダード・トバゴに JETAA の支部が結成されたのは 2013 年のことでした。帰国した JET 経験者たちの夕食会を機に発足した JETAA トリニダード・トバゴ支部ですが、大国に比べ JET 経験者の数が少ない同国において、常に活発な活動を維持し続け



日本映画鑑賞イベント

るのは容易なことではありませんでした。休止の危機に直面していた同支部のメンバー数人が結集し、支部に再び命を吹き込むというミッションに着手したのは数

年前のことでした。同支部会長のミリアム・ローチャン氏は、再生への道のりについて次のように述べています。「私たちは、JETAA トリニダード・トバゴ支部の再生を目指して、計画を立てブレインストーミングを行い、方向性と土台を築くことから始めました。私たちは皆、新たな JET 参加者を支援することの重要性を認識していたため、まず、このプログラムをよく知ってもらうためのイベントを開催しました。イベントでは、魅力的なプレゼンテーションや心を込めた体験談を通して、次世代を担う JET 参加者が、自分自身の変革の旅に出発する意欲をかき立てられるよう努めました。そして、新たな人生の一步を自信と安心をもって踏み出せるよう、必要な知識とリソースを提供するオリエンテーションを開催しました。こうした活動を通して、イベントの参加者が私たちのコミュニティに対し良い印象を抱いた様子を目の当たりにでき、素晴らしい経験になりました」

彼らの努力はそれだけに留まりません。ローチャン氏によると、同支部では、JET 経験者同士の旧交を温め、新たな絆を育めるような機会を創出しました。例えば、JET 経験者なら誰もが参加できるような、ビデオ会議シ

テム「Zoom」上のコミュニティの作成やネット

ワークづくりのための夕食会の開催などです。ローチャン氏は「これらの集まりは、日本と日本文化に対する愛によって結ばれた、私たちの精神の結実です」と語っています。

同支部では、さらに、両国の文化交流と理解促進のため、日本文化の豊かさと多様性を紹介するイベントも企画しました。例えば、誰もが楽しめる寿司作りのワークショップや日本映画鑑賞会などです。また、地元の学校にも足を運び、生徒たちに日本の美と伝統を紹介する文化普及活動も行いました。



地域の学校で日本文化について紹介

ローチャン氏は続けます。「こうした努力の積み重ねにより、支部は少しずつ変化を遂げています。そして、上述のイベントを開催することへのモチベーションは、無私の心でボランティアとして活動を率いた少数の幹部の熱意と、クレアニューヨーク事務所からの支援と資金提供の賜物です。これまでの歩みを振り返ると、深い感謝の念と未来への希望に満たされます」また、結成から 11 年目を迎えた同支部の展望について、「今後とも、私たちはこのコミュニティを育み、成長させ、末永く続くつながりを育てていきたい」との思いを述べています。(JET Streams Vol.56 No.7 より一部抜粋)

プロフィール



Miriam Lochan
(ミリアム・ローチャン)

トリニダード・トバゴの小さな島で生まれる。言語と文化への情熱から JET プログラムに参加。2018 年から 2022 年まで仙台市で ALT (外国語指導助手) として活気に満ちた 4 年間で過ごす。現在は、JETAA トリニダード・トバゴ支部会長として、文化交流に尽力し、新しい世代の JET 参加者を支援し、日本文化の豊かさを広め、国際理解を育んでいる。

4

JETAA UK 英国全土を対象とした大規模な夏祭り

JETAA UK イングランド・ウェールズ 国際担当 Ryan Keeble (ライアン・キーブル)

今年で4年目を迎える JETAA UK の夏祭りは、日本の夏祭りの精神を、英国の緑豊かな、(ときに) 日差しが強い海岸にもたらし続けています。この夏、8月24・25日に JET 経験者をはじめ、日英コミュニティの多くのメンバーは、英国国内の全3カ所で日本食や日本文化、そして祭りを楽しみました。



JETAA UK スコットランド夏祭りで参加者が盆踊りを楽しむ様子

2021年にロックダウン規制が緩和されたことを受け、JETAA UK 全国委員会は、対面での活動再開と英国全土を対象とした大規模イベントの実施を強く望みました。そこで、各支部は可能な限り同じ日に夏祭りを開催することにしました。夏祭りの最初に、いくつかの支部がビデオ会議システム「ズーム (Zoom)」を用いて「カンパイ」のコールを行い、祭りは幕を開けました。各支部によって祭りの規模は異なるものの、英国全土の支部同士や、地域社会とのつながりを重視する姿勢は変わりません。

ノースウェスト北西部支部は、英国北西部中央協会 (Japan Society Northwest) などの団体と協力し、今年もリバプールで生け花や着物のワークショップ、和太鼓、琴、紙芝居の上演、空手や居合道の演武など、多くの参加者を集めたイベントを開催しました。約1,800人が参加し、日本大使館や地方自治体、その他の日系団体の代表者を来賓として招待しました。

スコットランド支部長のジェリカ・レティツァ氏は、前年の秋祭りでの成功を再現したいと考え、2024年の夏祭りでは、より野心的な会場として歴史のあるシャンベリー・ハウスを選んだと説明しています。レティツァ氏は10カ月以上かけて、スコットランド日本協会 (漫画とコスプレ・コンテストの賞品として資金を提供)、日本総領事館 (日本酒、緑茶、祭り用品の提供およびイベントの宣伝協力)、そして GIA (JETAA 支部活動助成金) の申請を通じて、さまざまな日本の団体に資金と支援を求めました。

夏祭りでは、50人以上のボランティアが運営を支えました。また、200枚以上のチケットが売れただけでなく、能登半島地震の被災者を支援するため、日本赤十字社への寄付金として420ポンドが集まりました。2日間にわたり、相撲、弓道、盆栽、書道、陶芸、折り紙、俳句、漫画やコスプレ・コンテスト、日本酒や日本茶の試飲など、さまざまなパフォーマンスやアクティビティが行われました。ある国営テレビ局は、「スコットランド・サマー・マツリ」というローカルニュースとして、この祭りを取り上げました。祭りの開催について、レティツァ氏は次のように語っています。

「共通の体験を通じて人々を集め、心に残る思い出を作ることは私の性分です。日本では、人々が出会い、ネットワークを広げ、友情を育むための国際的な集まりを頻繁



スコットランド支部長ジェリカ・レティツァ氏と漫画・コスプレコンテストの参加者

に企画することで、それを実践してきました。4年前にスコットランドに引っ越してきたときは、知り合いが一人もいませんでしたが、自然に JETAA コミュニティーに連絡を取っていました。それ以来、私はそこで人間関係を築き、より強い絆を育んでいます」

JETAA UK 全国委員会は、各地域支部のメンバーの努力と献身を誇りに思うとともに、夏祭りを通して、JET 経験者、日本の団体、そして地元の日英両国のコミュニティの結びつきがさらに強化されることを願っています。

プロフィール



Ryan Keeble
(ライアン・キーブル)

JETAA UK イングランド・ウェールズ国際担当。JETAA UK ロンドン支部長や全国委員長を歴任。フジテレビのためにイギリス各地を撮影し映像を提供している。サッカーやボードゲームを楽しみながら、次の日本旅行を心待ちにしている。

スイス人の JET 経験者であるレア氏と彼女の後に JET プログラムに参加したメルジヌ氏。2017 年にメルジヌ氏が日本から帰国した後、お互いの故郷ではないスイスの町ザンクトガレンに 2 人が住んでいたことは、まさに運命でした。JET プログラムでの経験を通じて 2 人はすぐに友人となり、定期的に会うようになりました。そして、レア氏が「スイスで JETAA の支部を立ち上げることに興味はありますか？」と尋ねるまでに時間はかかりませんでした。

スイス出身の JET 経験者がいることに驚く人も多いかもしれません。スイスは小さな国で、一度に日本に行く JET 参加者はわずか 2 人ほどです。スイスと日本は国交 160 周年を迎えたばかりですが、スイスと日本の関係に詳しい人はあまり多くありません。

私たち JETAA-CH (JETAA スイス支部: CH はラテン語でスイス連邦を意味する Confoederatio Helvetica の略) のメンバーの多くは、マッターホルンで有名なスイスのツェルマットの姉妹都市であり、ツェルマットのように美しい山々とスキーリゾートがある新潟県妙高市で JET プログラムを経験しました。

レア氏が JETAA-CH を立ち上げるきっかけとなったのは、JET プログラムでの経験を参加者の人生の数年間だけで終わらせたくないという考えでした。「参加者が日本や日本で知り合った人々との関係を維持できるようにしたいのです。これは一人では難しいことですが、他の JETAA-CH メンバーと一緒に、やる気やモチベーションがより高くなります」とレア氏は語ります。彼女とメルジヌ氏は、他のスイス人 JET 経験者やスイス在住の外国人 JET 経験者に声をかけました。そして 2022 年にその夢が実現し、ベルンの日本大使館で第 1 回大会が開かれ、スイスの公用語であるドイツ語とフランス語で規約と細則が制定されました。

JETAA-CH の目的は、スイスにいる JET 経験者の生活を豊かにし、経験者同士をつなげるだけでなく、妙高市やツェルマット市などのように、友好協定や姉妹都市関係を通じて、日本とつながりのあるスイスの 13 都市との関係をより強化することです。

レア氏は支部立ち上げのイニシアチブを取ったものの、議長役は辞退し、同じくスイスの JET 経験者であるメルジヌ氏とジュリア氏にバトンを渡しました。二人は JETAA-CH の初代共同議長に選ばれました。

それ以来、JETAA-CH は、毎年春に行われるお花見や、チューリッヒのリートベルク美術館で行われる着物展のような文化展示の団体見学など、スイス人と日本文化をつなぐイベントを企画しています。また、JETAA-CH は日本大使館とも連絡を取り合い、在スイス日本大使が主催する天皇誕生日を祝うイベントなどにも参加しています。さらに、かつて日本に留学したスイス人のネットワーク「きずな」プログラムとも良好な関係を築き、日本に関わりのあるスイス人を結びつけています。最近では、9 月に開催されたグランドジャパン・フェスティバルに JETAA-CH がブースを出展し、JET プログラムのプロモーションを行うとともに、スイスと日本の関係や姉妹都市、海外での機会について多くのスイス人に紹介しました。

私たちは小さな支部ですが大きなアイデアを持っています。これからも楽しみながら、スイスにおける JET プログラムの存在感を高め、スイスと日本の文化的な理解やつながりを一層深めていきたいと考えています。



藤山美典在スイス日本大使による天皇陛下（徳仁天皇）の誕生日祝いに出席した JETAA-CH の代表

プロフィール



Katherine Perrier
(キャサリン・ペリエ)

米国カリフォルニア州ロサンゼルス市出身、スイス在住。2012 年から 2016 年まで新潟県で JET プログラムに参加。ロサンゼルスで育ち、日本のメディアを通じてアジア系俳優やアジアの文化を初めてテレビで見て、武道や日本に魅了された。日本在住中に知り合った配偶者と共にスイスへ移住し、現在は JETAA-CH の広報担当。

6

JETAA パシフィック・ノースウェスト支部の活動

PNWJETAA 幹事 Mira Pomerantz (ミラ・ポメランツ)

アメリカの太平洋岸北西部には、美しい自然や元気ある都市があるだけでなく、ダイナミックな JET 経験者のコミュニティも存在します。PNWJETAA (JETAA パシフィック・ノースウェスト支部) は、ワシントン州、アイダホ州北部、モンタナ州を管轄しており、主にグレーター・シアトル地域で活動しています。主な活動として地元の日本総領事館と協力し、日米文化交流の促進や育成、JET プログラムの支援、新規 JET 参加者や帰国者へのサポートを行っています。具体的には、サマーピクニック (バーベキューや日本式運動会風のゲームなど)、新規 JET 参加者の研修、就職説明会、忘年会、新年会などを開催しています。当支部には 650 人以上の登録会員があり、会員は任天堂アメリカ、三菱商事アメリカ、コストコ、スターバックスコーポレート、ワシントン州とモンタナ州の主要大学、シアトル市役所、日本総領事館などさまざまな分野で活躍しています。

会員は、JET プログラムとその終了後の経験を生かして、新規 JET 研修を行ったり、就職活動のイベントでネットワークを広げたりしています。新規 JET 研修では、PNWJETAA の会員がメンタルヘルス、安全、経済、カルチャーショックなどさまざまなトピックについて発表し、JET 参加者がプログラム参加に向けてより良い準備ができるよう支援しています。また、在シアトル日本総領事館とは、研修の調整から採用や面接の支援まで、JET プログラムのあらゆる面で緊密に協力し、強固な関係を維持しています。私たちの広範なネットワークは、会員と地域社会を結びつけ、見識を共有し、直近の JET 帰国者を含むあらゆるキャリア段階での就職支援を提供するのに役立っています。また、「シアトル桜と日本文化フェスティバル」やモンタナ州西部の「日本祭り」といった公的なイベントで会員に日本文化を宣伝してもらったり、地域奉仕活動に従事したりして、ネットワークの拡大に努めています。「ウォーク・フォー・ライス」は、シアトルのチャイナタウン・インターナショナル地区にある ACRS フードバンクが毎年行っているイベントで、シアトルのアジア系アメリカ人やハワイ先住民、そして太平洋諸島民 (AANHPI) のコミュニティのた

めに、文化的に馴染みのある食品を購入するための募金活動を行っています。PNWJETAA は 1998 年からこのイベントを支援しており、これまでに 1 万 5,000 ドル以上の寄付金を集めています。

その他、毎年、JETAA ポートランドと JETAABC (カナダ・ブリティッシュコロンビア・ユーコン支部) で「JET スキー」というイベントを開催しています。水上スポーツと混同されないように説明すると、JET スキーは各支部から数人の参加者が集まり、開催都市を交互に変えて企画する週末のスノースポーツ旅行です。昨年は、3 つの支部のメンバーがポートランドで週末を過ごし、地酒蔵「SakéOne」を訪れ、ポートランド日本庭園を見学し、フッド山でスキー、スノーボード、スノーシューを楽しみました。また、昨年は JETAA ポートランドと JETAABC のイベントであるアイアン・シェフ・コンペティションも復活させました。このコンペティションでは、毎年地元の中小企業を支援し、日本にゆかりのある「特別な食材」を提供しています。今後もパシフィック・ノースウェストの隣人との関係を発展させ、支部間のイベントを他の支部にも広げていきたいと考えています。



2024 年 PNWJETAA サマーピクニック

プロフィール



城崎温泉にて

Mira Pomerantz
(ミラ・ポメランツ)

米国ニュージャージー州出身、ワシントン州在住。

現在はワシントン州シアトルの日系貨物輸送会社で経理の専門家として勤務。2018 年から 2021 年まで兵庫県で JET プログラムの CIR (国際交流員) として、城崎温泉や豊岡市の PR を行う観光事務所に勤務した。過去 3 年間、PNWJETAA 支部の幹事を務める。

日本との絆を維持・強化したい

2022年11月に開催されたJETAA国際会議で、JET経験者から「日本とのつながりを継続したい」という声が挙がったことをきっかけに、2017年以来、7年ぶりのJET動画コンテストが実現した。動画を介して、JET参加者、JET経験者と日本を継続的につなげる、JETAA-Iの事業の中でも画期的な取り組みの一つである。

本事業は、現役のJET参加者およびJET経験者が発掘した、あまり知られていない日本の魅力を動画で発信する機会を設けることで、JETプログラムの知名度向上や日本の地域活性化を促進し、さらに世界中のJET経験者と日本との絆を維持・強化することを目的として企画された。日本での経験をもとに、「一期一会」「一生懸命」「花鳥風月」のいずれかをテーマに動画を制作することが、今回のコンテストの応募要件となった。

準備に約1年をかけ、JETAA、JETAA-I、AJET（現

役のJET参加者の自主的サポート団体）の協力を得ながら、2023年10月よりさまざまな媒体を通して本格的に募集を開始した結果、国内外から約200本もの素晴らしい作品が寄せられた。

応募作品は、JETプログラムでの経験に加え、日本での生活、人や物との出会い、食文化、自然など実に多様な視点で制作された力作ぞろいで、どの作品からも、日本やJETプログラムに対する思いの深さが伝わってきた。そのため、審査で上位の受賞作品を絞り込むのは簡単な作業ではなかった。幸いなことに、本事業の協力団体である独立行政法人国際観光振興機構、内閣府（知的財産戦略推進事務局クールジャパン）、および独立行政法人国際交流基金の協力を得て、クエアで一次審査を行った後、さまざまな分野で活躍している専門家に最終審査を依頼することができた。

2024年3月19日に開催された審査委員会では、元NHK国際放送局エグゼクティブ・ディレクターの榎原美樹審査委員長はじめ、7人の審査員に、受賞作品だけでなく賞の内容も検討いただいた。クオリティーの高い作品が多く、最終的には当初の予定を上回る13本の作



賞	受賞作品	受賞者氏名	国籍	赴任地
最優秀賞（金）	The Four Seasons of Tohoku	John Jarvis	米国	秋田県
最優秀賞（銀）	A Once-in-a-Lifetime Taste of Japan	Adrian Clements	カナダ	岡山県
最優秀賞（銀）	A New Kind of Awareness - 新たな気づき	Fanny Orange	フランス	山梨県
優秀賞（芸術性）	On Miyako, In Nature	Emily Rose Eisemann	米国	沖縄県
優秀賞（創意工夫）	300 yen for a once in a lifetime opportunity	Suriya Ratnam	カナダ	秋田県
優秀賞（独自性）	Sakura X Pou: A Book Inspired by Cherry Blossoms	Phillip Simon	トリニダード・トバゴ	埼玉県
優秀賞（構成力）	Hiking the Kumano Kodo	Elina Turner	米国	奈良県
優秀賞（おしゃれ）	A Story	Tiffany Smith	ジャマイカ	奈良県
優秀賞（色彩感覚）	Colors of Kochi 高知の色	Irdina Auni	シンガポール	高知県
特別賞	Tashirojima Cat Island Tier List	Michael Boyle	英国	山梨県
特別賞	The Power of Isshokenmei: Lessons from Nagaoka	Carlo Capua	米国	新潟県
特別賞	Abare: Light & Delirium	Liam Gingell	英国	石川県
いいね賞	Higashiagatsuma: glad I came	Daray Lei	カナダ	群馬県



授賞式会場風景

品が受賞作品に選定された。受賞者 13 人のうち、10 人は現役の JET 参加者、3 人は JET 経験者で、国籍は 7 カ国にわたっている。賞は「最優秀賞」「優秀賞」「特別賞」、そして「いいね賞」の 4 つのカテゴリーに分類され、各カテゴリーごとに賞状、トロフィー、副賞が授与されることも決定した。

なお、2024 年 5 月から応募作品が YouTube で公開され、いつでも作品が鑑賞できるようになっている。ぜひ動画コンテストのページを訪れ、さまざまな応募作品の魅力に触れていただきたい。

JET 動画コンテスト
2024 応募作品公開
ページ

授賞式レポート

授賞式は、2024 年 7 月 12 日夜、国外在住の受賞者 3 人を含む全受賞者を東京に招待して、ドイツ文化会館 OAG ホール（東京都港区）において開催された。当日は雨天にも関わらず、受賞者のほか、現役の JET 参加者や国内外の JET 経験者、関係者など約 100 人が出席する盛大な催しとなった。

表彰式は、クレアの理事長による開会のあいさつで幕を開けた。続いて 13 人の受賞者の作品がステージ上のスクリーンで上映されると、会場から受賞者を称える大きな拍手と歓声が沸き起こった。すべての作品はウェブ上でも見ることはできるが、大きなスクリーンに映し出



スピーチするジョン・ジャービス氏

されると、より一層その魅力が際立つ。個々の JET 参加者が日本で感じた驚きや喜びを、動画を通して会場全体で共有できた点も意義深かった。

作品上映の余韻が冷めやらぬなか、受賞者たちへの賞状授与や記念撮影が行われ、榎原審査委員長から締めくくりにして総評のコメントをいただいた。

続いて行われた交流会は、国籍や所属を越えて出席者同士が自由に歓談し、交流を深め合う場となった。交流会では、JETAA-I 会長のローレンス・イニス氏から、本コンテストの趣旨などの話があり、その後、最優秀賞である金賞受賞者のジョン・ジャービス氏もスピーチを行った。

この場を借りて、本コンテスト開催のために多大なご協力をいただいた関係者の皆様に改めて深く感謝申し上げる。JETAA-I およびクレアでは、今回集まった素晴らしい動画の数々を多くの自治体で活用していただけるよう、引き続き PR を図ると同時に、今後も JET 経験者と日本との絆を維持、強化する事業を検討していきたい。



受賞者たち

金賞：John Jarvis (ジョン・ジャービス) さん
(米国出身)、ALT、秋田県 (2021 年 - 現在)



動画名：The Four Seasons of Tohoku (東北の四季)

クレア：ジョンさんのビデオは、日本の友人を起用したことが印象的でしたね。

JJ：この動画は友達が協力してくれたからこそできたものです。魅力的な動画になりました。彼らは私の本当の友人で、動画では、私たちの実生活が見られます。参加を承諾してくれたこと、そして A+ のパフォーマンスをしてくれたことにとっても感謝しています。撮影の際は翻訳アプリやジェスチャーを使って、ビデオの中で彼らにしてほしいことを伝えました。彼らはビデオ制作にとっても協力的でした。また、よく一緒に旅行に行ったり、病気になる薬や食べ物を持ってきてくれたり、誕生日パーティーも開いたりしてくれますので、私は彼らを「日本の両親たち」と呼んでいます。いつも私たちを驚かせてくれます。

クレア：どうやって知り合ったのですか？

JJ：実は、スマホのゲームのおかげです。そのゲームは現実に散歩しながらキャラクターを集めるゲームです。ある日、外でそのゲームをしていたとき、他のプレイヤーと出会いました。彼は友達と毎週ゲームをするために集まると言い、私たちも誘ってくれました。そして、毎週一緒に遊ぶことになりました。ゲーム以外も、一緒に旅行をしたりして、お互いに東北の素敵な場所を紹介していました。

クレア：コンテストに参加しようと思ったきっかけは何ですか？

JJ：映画制作は5歳の頃からの趣味の一つでした。映画制作について学んだことを証明するために、映画制作コンテストに参加したいとずっと思っていました。今では趣味としてですが、一時はプロとしての道を追求することを考えていました。動画コンテストの開催が発表されたと聞いたとき、ついにコンテストに参加できるチャンスだと思っただけでなく、自分のストーリー、特に日本での友人たちとの出会いや、アメリカの友人たちに日本での生活を見せることができるチャンスだと思いました。そして、結果的には東北を紹介できてよかったです。私の生徒たちは、東北を活性化させる必要性についてよく話しているので、私のビデオがより多くの人に東北を訪れてもらうきっかけになればと思います。

クレア：JET プログラム参加で一番印象に残っていることは何ですか？

JJ：いい思い出がたくさんあります。ひとつだけ選ぶとしたら、今夜です。他の応募作品を見ていたのですが、よく練られ、よく編集されたビデオがたくさんあり、自分には優勝のチャンスはないと思っていました。それなので、トップ3の受賞者が発表されたとき、とてもびっくりしました。今日はJET プログラムのハイライトでした。長年、映画制作を勉強してきた私の努力の結晶です。今夜のことは絶対に忘れません。

銀賞：Fanny Orange (ファニー・オランジュ) さん
(フランス出身)、CIR (国際交流員)、
山梨県甲府市 (2019 年 - 現在)

クレア：コンテストに参加したきっかけは何ですか？

FO：実は、このコンテストが復活するのを待っていたんです。JET プログラムに参加することが決まったとき、いろいろ調べていて、動画コンテストの存在について知りました。当時はビデオを制作した経験がまったくありませんでしたが、JET 参加者になってからは、仕事でビデオを含むコンテンツを作る機会に恵まれました。また、いつかの応募に備え、日頃からあらゆるものを撮影することにしました。そうすることで、世界を見る目が変わりました。常に目を見開いて、その瞬間を見つめ、物事



Shosenkyo Gorge 御岳昇仙峡
Kofu 甲府市

動画名：A New Kind of Awareness — 新たな気づき
を捉えることができるようになったのです。3、4年の間でたくさんの映像を撮り溜めました。しかし、それらを生かすことができないでいました。そうしたなか、コンテストの開催が発表されたので、より一層やる気が出てきました。

クレア：他のテーマではなく、「花鳥風月」というテーマを選んだ理由は何ですか？

FO：私は自然が大好きです。日々の生活の中で撮影するのは、ほとんどが自然です。私はずっとインドア派だったのですが、日本が私をどのように変化させたかを表現したかったのです。また、日本そのものが季節によってどのように変化していくのかも表現したかったです。

そして、私は心から人と話すことが好きです。四季というコンセプトは特に目新しいものではありませんが、私なりにアレンジして、日本人が「日本には四季がある」と言うことの本当の意味を表現しようと思いました。自分では斬新ではないと思っていたのですが、このビデオに共感したと言ってくれる人がいました。だから、人々の心に響くものがあつたのかもしれない。

クレア：JET プログラムで一番印象に残っていることは何ですか？

FO：映像制作を通じて、人生や世界の見方が変わりました。JET プログラムに参加したことで、自分の知らなかった新しい部分への旅が始まり、素晴らしい人たちとの出会いがあり、新しく熱中できるものを発見したり、新しいスキルを身に付けたりすることができました。

銀賞：Adrian Clements (エイドリアン・クレメンツ) さん (カナダ出身)、元 ALT (外国語指導助手)、岡山県高梁市 (2021 年 -2022 年)

クレア：エイドリアンさんは YouTube に日本での生活についてたくさんの動画をアップロードしていますね。



私達が作った麺で温かいそばと冷たいそばを作ってくれました。

動画名：A Once-in-a-Lifetime Taste of Japan (一期一会)

ビデオを作り始めたきっかけは何ですか？

AC：3人の兄弟と一緒にビデオ制作を始めました。高校、大学の頃、さらに動画制作を追求するようになりました。私は面白いビデオを作ることが好きです。だから、動画コンテストのテーマとして「楽しくできる料理」を選びました。

クレア：ビデオを作るうえで最も大変なことで、やりがいのあることは何ですか？

AC：一番大変なのは、時間がかかることです。しかし、自分が誇れるものが完成し、他の人たちがそれを好きだと言ってくれるのは、ケーキの上のアイシングのようなもので、やりがいを感じています。

クレア：撮影の勉強はしていますか？お気に入りのテクニックはありますか？

AC：動きを使うことが好きです。カメラを動かして撮影する方法は私の得意とするテクニックです。手だけで撮ることもあれば、ジンバル (手振れを補正する機械) を使うこともあります。

クレア：今まで試した料理の中で一番気に入ったものは何ですか？

AC：お好み焼きです。特に冬の夜に、お好み焼きのようなすぐに作れる温かいものを食べるととてもおいしいと感じます。

クレア：JET プログラムに参加して一番印象に残っていることは何ですか？

AC：先生方と一緒に仕事ができただけです。日本語と英語の両方を使って、不器用でも異文化コミュニケーションをとることができたのがよかったです。そのおかげで、JET プログラムに貢献できていると感じました。

クレア：今後の予定はありますか？

AC：日本で、あるいは他の国にいたとしても、日本についてのビデオを作り続けたいと思っています。

映像は、人の心を動かす力を持つ。しかも、瞬時に。1分の長さもない映像が、見る人を泣かせたり笑わせたり、ときには考え方で変化させる。ケータイで撮る動画を、不特定多数の受け手に配信できるようになり、世界中の人々がその力に気がついた、そんな時代に私たちはいる。私は過去にも2016年、17年の2回、JET動画コンテストの審査をさせていただいたが、その時と比較して、まずこの“時代の変化”を如実に感じた。

今回、約200本の応募作品のうち、一次選考を通過したのは33作品。どれも素晴らしい出来で、最終選考での採点は難しかった。画質、画角、色。映像は美しく、ドローンによる空撮も多用されていて、プロ並みの編集のものも見られた。しかし、映像が心の琴線に触れる鍵は、「どんなストーリーを語り掛けるのか」だ。

33の異なった作品はいずれも、JET参加者として各地方に暮らす若者たちの素直な気持ちが表現されていた。



受賞作品より - Phillip Simon (フィリップ・サイモン)
「Sakura X Pou: A Book Inspired by Cherry Blossoms」

初めて来る日本、初めて暮らす土地。赴任先に到着した当初の大きな不安は、学校の先生や生徒、近所の人々と仲良くなるにつれて消えてゆき、気がつくと「ここに来て本当によかった」と感じている自分がいた、という心の軌跡が多く作品に描かれていた。また、山深い修行の道を徒歩や自転車で行くチャレンジや、地元の自然を画用紙にスケッチしてそれを映像化したもの、全国各地の特産の食べ歩き、あるいは日本中ドライブして感じたことなど、それぞれに心が動かされるストーリーがあった。さらには帰国後、日本についての絵本を出版し、小学

校で読み聞かせをしているOBや、派遣先の町の江戸時代のお話を忘れず、姉妹都市交流に生かしているOBなど、日本での経験が“JET後”の人生に、いかに重要な影響を及ぼしているかを映像化したものも印象的だった。



受賞作品より - Carlo Capua (カルロ・カピュア)
「The Power of Isshokenmei: Lessons from Nagaoka」

これらの応募作品は、受賞の有無を問わず、是非それぞれの赴任先で、先生や生徒、役所の同僚や近所の人々と一緒に観て、話し合う機会を作ってもらいたい。映像には、世界からはるばる日本にやってきた若者たちが、何を見て、何を感じ、どう成長したのかが凝縮されている。文化の異なる国から来た彼ら彼女らに教育現場で活動してもらったり、互いの生活習慣の違いに戸惑ったりと、ホスト側にもさまざまな苦労があることは想像に難くない。しかし彼らのこの作品を見れば、きっとホスト側も「受け入れてよかった」「来てくれてよかった」と感じてもらえるのではないかなと思うからだ。

JET参加者が作った映像作品は、単に日本の美やよさを世界にアピールするものではない。そうではなく、JETプログラムを通して、任用される若者たちとホストするコミュニティの365日(かけるX年)の間に、互いの心がいかに触れ合い、そこから先のそれぞれの人生にどんな意味を持つのかを記録してくれる、大切な宝だ。甲乙つけ難し……と悩みながらも、審査中、幸せな気分になったのは、私だけではないはずだ。最後になるが、この手のかかるプロジェクトを立ち上げ、運営を継続しているクレー関係者の皆様にも敬意を表して筆をおく。



榎原美樹氏

10

JET 動画コンテスト 2024 新たな登場！

JETAA-I (元 JET 参加者の会国際委員会) 会長 Laurence Inniss (ローレンス・イニス)

始まり

最後に動画コンテストが開催されたのは、2017 年でした。当時、コンテストは現役の JET 参加者を対象としており、非常に魅力的な作品が多く集まりました。2022 年には、私は JETAA-I の副会長を務めており、東京で開催される国際会議が間近に迫っていました。この会議では、世界中の JETAA の支部から代表が集まり、支部運営や会員との関わり方をより良くするために、国代表同士で知識を共有しました。

私たち JETAA-I は常に、定められた目標を達成するための改善策を模索しています。私は当時の会長と話し合い、「JET 動画コンテスト 2024」という自分のアイデアを提案しました。さまざまな検討を経て、このアイデアを内部の管理チームやクレアに提案することとなりました。もちろん、このプロジェクトの目標は野心的でしたが、実現可能だとも感じていました。

コンテストの向こう

このプロジェクトに対する私の個人的な願いは、JET プログラム全体のワークフローに貢献することでした。JET 参加者は、地域コミュニティを探索し、現地の人々と交流し、その中で生まれたつながりを広く紹介することが推奨されています。この動画コンテストを通じて、地方自治体は観光促進やビジネスに活用できる外国語の広報資料を手に入れることができます。クレアもまた、日本での経験や日本への愛を紹介するこの動画を活用し、JET プログラムの広報に役立てることができます。さらに、JET 経験者がこのコンテストに参加することで、日本や日本で出会った家族のような友人と再会できる貴重な機会ともなります。

審査

授賞式の話に入る前に、面白い作品や目を見張るような作品、興味深い作品など、さまざまなジャンルの応募があったことをお伝えしておきたいと思います。そのため、評価と審査のプロセスは決して簡単なものではありません。

ませんでした。それが良い意味での挑戦となりました。私たちはもっと多くの賞をお届けしたいと考えていましたが、残念ながら賞の数には



トリニダード・トバゴの JET 経験者

限りがありました。それでも、将来再び開催された場合においてもたくさんの応募が届くことを願っています。

実感と成功

東京で開催された授賞式は、本当に素晴らしい夜だったと思います。小さなスクリーンでも素晴らしい映像でしたが、大きなスクリーンではさらに素晴らしい映像として楽しめました。各動画の上映が終わるたびに湧き起こる拍手、広々とした劇場に鮮やかなスクリーンとクリアな音声が加わり、本当に忘れられない夜になりました。私は何人かの観客やほとんどの受賞者と話をしましたが、誰もが「エクセレント！」と私の意見に同意してくれました。また、授賞式を対面で開催することで、より大きな満足感を得られたという意見も一致していました。そして受賞者たちが会場で友人やパートナーに支えられているのを見て、私はとても感激しました。トリニダード・トバゴから来日している私の同胞も多く出席していました。次回の JETAA-I 地域会議では、このプロジェクトが世界中の支部にどのような影響を与えたか、またはこれから与える影響について意見を求める予定です。個人的な意見ですが、このイベントは大成功だったと思います。次に私が望むのは、地方自治体や JET 経験者が今よりももっと関心を持ってくれることです。

将来の動画コンテストを楽しみにしています！

では、その際にまたお会いしましょう！



ローレンス・イニス氏